

作文の部

最優秀賞

「私の家族」

箕岳中学校 二年 西條 愛梨

私の家は、父と母、一歳になる弟、そして祖父母の六人家族です。幼い弟がいるのでどうしても弟中心の生活になってしまいます。私も弟の面倒を見ることが多いのですが、いろいろなことに興味をもちはじめたので目が離せません。特にテスト勉強のじゃまをされることは、私にとっては重要な事です。

私はテストが近くなってくると、何となくプレッシャーを感じてしまい、「良い点数を取る事が出来なかったらどうしよう……。」と心配になってしまつのです。

別に点数が悪くても怒られる事はなく、母からは「間違った所をちゃんと復習して、次は頑張つてね。」と言われるくらいなのですが、それでも毎日プレッシャーで押し潰されそうになります。まして来年は中学三年生です。受験の事を考えることから心配です。ですから、時々弟の

面倒を見ながらも「ちょっとじっとしててよ。勉強できないでしょ。」と言いたくなります。そんな私の様子を見て、母は「ごめんね。集中できないでしょ。」と心配してくれます。

今年の三月に、その弟が風邪から、喘息になり、夜中救急病院に行きそのまま入院してしまいました。

その日は、父が秋田の出張から帰って来た日でした。仕事で疲れているのに、父も母も夜も寝ないで入院の準備を交替で行い、家と病院を往復してやっと落ち着いたのは深夜も過ぎた朝方でした。そしてそのまま二人は一睡もせず弟に付き添っていました。

私もすごく心配で、なかなか寝つけませんでした。その日から、父は仕事から帰ってくると毎日真っ直ぐ病院へ通い、母は、ずっと病院へ泊りました。

私も何度かお見舞いにいきましたが、母はすごく疲れている感じで、何日も寝ていないようでした。それでも、私が病院に行くと、学校での出来事や私の体調を気にかけてくれました。嬉しかったです。弟のことだけでも大変なのに、私のことも気づかう母。そんな母の姿を見て、

「親ってすごいなあ。大変だなあ。」と改めて思いました。

弟の喘息もすっかり良くなり、弟が退院してきました。久しぶりに、家族全員が揃い、いつもの生活に戻りました。

弟の入院をきっかけに、私は家族について気づいたことがあります。それは父や母の私たちに対する愛情の深さと、六人揃ってはじめて「家族」といえるんだということです。ふだんは「うるさいな」と思っている、弟のいない家の中は、しんと静まり返ってとても寂しいものでした。また、祖父母がいるとはいえ、いつもいるはずの父や母の姿が見えないことで、私自身、とても不安を感じました。

やはり、私の家族は六人全員が揃ってはじめて家族になるんだと感じました。

私が学校で勉強している間、とても大変な思いをして仕事をしている父。家事、育児の他に仕事を抱え、毎日休むことなく頑張る母。私もたまにお手伝いをしますが、とても大変です。それを次々とこなしていく母を私は尊敬しています。

このような家族に見守られながら、私は今幸福なんだと改めて感じました。